令和三年度　学校推薦型選抜
日本・中国文学科　小論文②　出題意図・解答例

出題意図

古典の原文を正確に読解するとともに、作者の意図を明確に把握しそれをよく咀嚼したうえで、作品に対する自分の考えを正しい日本語によって的確に表現する能力を問う。

解答例

一

この文章では、他人についての否定的な発言に対するいましめが述べられている。軽い気持ちでよくない噂を触れまわると、言われた方は思いつめて深く憤り、結果的に言った側が面目を失ったり、身をほろぼすほどの大事になったりする場合もあるとする。Bはこの具体例にあたる。藤原文範は高僧余慶僧正が不義密通を犯しているとの噂を立てたが、それを聞きつけた僧正は自ら文範邸へと出向き、文範を加持祈祷の力で懲らしめた。まさに、深い思慮もなしに悪意ある噂を広めた人物が、相手の怒りのために命に関わる窮地に陥る例である。これに対してCは、悪意はなくとも、何気なく口にしたひとことが、相手を追い詰めることがあるという具体例である。藤原公任の家での歌会の場で、詠んだ歌を批判された藤原長能が、そのことを思い詰めて病気になり、ついには亡くなるという話である。公任としては、意趣があってのことではなく、思いつくままに批判を口にしただけだったのだが、受け取る側がそれを深刻に受け止めたために起こった悲劇であった。それは、言った側にとっても悔やんでも悔やみきれない悲劇である。このように、この文章では、人の身の上をあれこれいえば、さまざまなかたちで自身に報いが返ってくるといましめるのである。

近年、ＳＮＳ上の悪意ある書き込みが社会問題となっている。匿名性を盾に、何気ない気持ちで発信したひとことが、言われた側を追い詰め、再起不能にさせたり、深い憤りから訴訟へと発展したりする。この文章のとおり、他人への悪意が自分に返ってくることを自覚してつつしむべきであろう。　（六六〇字）

二

馬に乗る者は騾馬が賤しく馬が貴いとするが、必ずしもそうではない。恩恵を与えて飼い主の意のままにさせようとしてもそうせず、力で迫られると相手のいいなりになる者が賤しく、恩恵にあずかり寛容に対応されているうちは言うことを聴くが、力で迫られると言いなりにはならず、自らの心のままに行動し、揺らぐことのない者が貴いとすれば、馬は賤しく騾馬は貴いということになる。強情で、万事を自らの力で対処しようとし、何ものにも屈しないという自負心を持ち続ける騾馬は、そうした特質をもつがゆえに、馬より劣るとされるのか、と述べている。

筆者は騾馬と馬との優劣について論じることを通じて、人の品行の善し悪しを言う。自発的に振る舞うことが許されていながらも善くすることができず、鞭打ちの刑を加えられてようやく善くできる状態になるのが人間の特性であることを指摘した上で、「人間は騾馬以下なのか」と問う一文は、筆者をとりまく社会のあり方に対する疑念と強い不満を反映するものと言えるであろう。権力者の都合によってのみ人材は評価されるべきではないが、現実はその弊を免れることは難しい。威圧されれば人のいいなりになってしまう馬のような人材よりも、人の脅しに屈することなく、揺るぎない自己を堅持する騾馬のように愚直な人材こそ、正当に評価されてしかるべきであろうが、実際の人材評価は必ずしもそう単純なものではないことを鋭く指摘している。　（五九六字）